



シビックである以前に 理想のFFスポーツカー それが新しい シビック TYPE R

ベースとなるシビックのウェイトを削ぎ、足回りを固め、エンジン性能を磨き上げることで、「速さ」を手に入れる——。歴代のシビック TYPE Rは、いずれもこうした手法により運動性能を極限まで高めることで誕生してきました。

ただし、走りのパフォーマンスを最も大きく左右する、車両のディメンションやボディー骨格・プラットフォームの構造などは、あくまでもシビックのそれに準ずるもの。従来は「TYPE R」といっても不可侵の領域が存在していたと言えます。

New シビック TYPE Rの開発は、そうした過去の手法より、自らの発想を解き放つところから始まりました。

よりドライバーの意のままになるクルマ、より速く走ることでできるクルマを作りたい。そのレーシングスピリットにどこまでも忠実であるためには、どのような姿であるべきなのか、どのようなハードウェアを採用すべきなのか。

ゼロから思い描き、根幹に関わる部分から「理想のFFスポーツカー」を妥協無く追求したのです。

クルマとしての基本性能が大幅にレベルアップしたことは、サーキットパフォーマンスの向上に直結し、2017年4月には、ニュルブルクリンク FFモデル最速^{*1}となる7分43秒80のラップタイムを記録^{*2}。これにとどまらず、サーキットから街中まで幅広いシーンで、あらゆるドライバーが走りを楽しむことができる、懐の深い走行性能までも同時に獲得しました。

シビックである以前に、理想のFFスポーツカーである。
シビック TYPE Rの、そして「TYPE R」の新時代が始まります。

歴代シビック TYPE R / 新型シビック TYPE R パフォーマンスイメージ



*写真は量産前の最終開発車両による走行を撮影したものです。国内仕様とは異なります。 *1 Honda調べ *2 Honda測定値。開発車両によるテスト走行